

mFOLFOX6【大腸】療法

注射薬

投与順序	外観	お薬の名前	お薬のはたらき
1		アサチン注+デキサメタゾン注	副作用（吐き気）を予防します
2		レボレチン点滴静注	フルオウラシル注の効果を高める為に使用します。 約2時間かけて点滴します。
3		オキサリプラチン注	治療の為のお薬です。 2時間かけて点滴します。
4		フルオウラシル注	治療の為のお薬です。 3分間かけて注射します。
5		フルオウラシル注	治療の為のお薬です。この器具の中にお薬を入れて、少しずつお薬が入っていくように設定します。 約46時間かけて点滴します。

内服薬

投与順序	外観	お薬の名前	お薬のはたらき
1		デキサメタゾン錠	副作用（吐き気）を予防します。

投与スケジュール

薬品名	日数																												
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	
オキサリプラチン点滴静注液	↓																												
レボロキサート点滴静注用「ヤル	↓																												
フルオウラシル注	↓																												
フルオウラシル注	→	→																											

2週間に1回治療します。

mFOLFOX6療法【大腸】

よく起こる副作用

★末梢神経障害（リンパノ）

発生時期 治療開始日から起こりますが2～3日後におさまることが多く、さほど長くは続きません。但し治療が長期になると回復するまでに時間がかかるようになり、症状が数ヶ月続くこともあります。

症状 ○手や足、口の周りや喉の周りのしびれや痛み、飲食物が飲み込みにくい、喉が締め付けられる様な感じがする、といった症状が起こることがあります。また治療を長く続けると、しびれや痛みが続き「ボタンがはずしにくい、細かな作業ができない」、「歩きにくい」などの症状があらわれることもあります。

対処法 ○冷気や、冷たいものに触れることで症状が出やすくなったり、悪化したりします。治療期間中は、冷たい食べ物や飲み物を避け、冷気や冷たい物に触れないよう注意し、体や皮膚を冷やさないようにして下さい。
○少しでも症状があらわれるようになった場合には以下のことに気をつけましょう
・冬場の寒い日には、温かい服を着たり、スカーフや手袋を身に付けたりして、寒さから身を守るようにして下さい。
☆暑いときでも、室内や車内を冷やしすぎたり、エアコンの冷気に直接あたらないようにしましょう。
・足先は冷えやすいので、靴下やスリッパを履いて保温に努め、冷たい床を素足で歩かないようにして下さい。
☆冷たいもの（金属製品・ドアノブ・車など）を直接触らないようにしましょう。
☆飲み物は温かいものにし、氷やアイスクリーム、シャーベットなどを口にしないようにしましょう。（吐き気や口内炎があっても、氷を口にしないで下さい）
○症状がひどいときには漢方薬やビタミン剤が処方されることがあります。またお薬を減量したり、治療をお休みする事もあります。
○転倒に注意しましょう。熱いものや刃物を扱うときにはけがをしないように十分注意しましょう。

★骨髄障害

発生時期 薬剤投与日から7～14日後に減少します。

症状 骨髄には造血細胞と呼ばれる白血球（細菌などから体を守る）、血小板（出血を止める）、赤血球（酸素を運ぶ）の元になる細胞があり、この造血細胞にお薬が作用して造血細胞に障害を及ぼすことを骨髄抑制（障害）といいます。骨髄抑制が起こると、白血球、血小板、赤血球の数が減少し、その働きも弱くなり、感染症や出血、貧血などの症状があらわれやすくなります。

<代表的な症状>

- 感染症：37.5℃以上の発熱・寒気・ふるえ・のどの痛み など
- 貧血：疲れやすい、めまい、立ちくらみ、動悸、顔色が青白い など
- 出血：紫斑（原因不明のあざ）、歯茎からの出血、鼻血、月経量の増加、血が止まりにくい など

対処法 ○感染対策で最もポイントとなるのは、患者様自身の感染予防のセルフケアと感染の早期発見です。感染症をおこさないように、人ごみを避け、こまめにうがい、手洗いを行いましょう。白血球は一時的に下がっても、その後回復します。
○貧血では症状の自覚のないまま、転んだりして事故を起こす危険もあります。日常生活では十分な休養をとりましょう。また、いきなり動かず、動き始めはゆっくりとするように注意して下さい。
○血が止まりにくくなる場合がありますので、かみそりや爪きりのような鋭いものを使用する際には注意して下さい。打ち身や切り傷を作るような行為や激しい運動は控えるようにしましょう。歯ブラシも柔らかいものを使いましょう。
○症状に応じて、薬剤の投与や、輸血をする場合があります。

★悪心・嘔吐および食欲不振

★悪心・嘔吐および食欲不振

発生時期 薬剤投与日～5日目位まで
※まれに、以前の化学療法後の嘔吐の体験が影響し、点滴の数日前からおこるものがあります。

症状 食欲が落ちたり、味覚の変化、においに敏感になったり、胃が重たく感じたりします。ときどき吐くこともあります。

対処法 ○治療の前に吐き気止めの注射を行います。症状によっては吐き気止めの内服薬を服用することもあります。
○脱水をおこさないように水分はこまめにとるように心がけましょう。
○吐き気があるときは無理して食べる必要はありません。口当たりのよいものを少量ずつとりましょう。
○吐き気が強く食事できないときは、栄養や水分を点滴で補給することもあります。
○事前に吐き気止めの薬を点滴あるいは服用します。症状がでた後に、吐き気止めの薬を追加することもできます。

頻度は少ないが注意を要する副作用

★アレルギー反応(過敏症)

発生時期 投与回数が増えるにつれ症状が起こりやすくなります。

症状 そう痒(かゆみ)、紅潮(あかみ)、じんま疹、鼻閉(はなづまり)、咳、くしゃみ、吐き気・嘔吐、腹痛、浮腫(むくみ)などがあります。
アナフィラキシーショックのような重症な場合は、血圧低下、呼吸困難(息苦しい)、喘息、喘鳴、不整脈などがあらわれます。

対処法 ○アレルギー反応のおそれがある場合は、治療薬を投与する前に過敏症を防ぐ予防薬を使用します。
しかし投与中や、投与後にこうした異常を感じたら、すぐに知らせてください。

★下痢

発生時期 薬剤投与日から数日～数週間後に起こる事があります。

症状 水のような便が夜間をとわず頻回に出ます。ときどきおなかがしぶるようになり痛くなります。

対処法 ○感染症を防ぐ為、排便後は肛門の周りを清潔に保ちましょう。
○周期的な腹痛、1日5回以上(もしくは通常よりも3回以上多い排便)の排便、夜中の下痢便が起こった場合はお知らせ下さい。
○症状によっては下痢止めが使われることがあります。
○下痢がひどくなり、液状・粘液状の便が続く時、あるいは血便や強い腹痛があるときはお知らせください。
○食事は温かく消化吸収のよいものを取りましょう。
○下痢によって水分が失われるので、スポーツドリンクなどで水分をたくさんとりましょう。
○辛い食べ物、冷たい食べ物、炭酸飲料やコヒーも避けましょう。

その他の副作用

★脱毛(軽度)

発生時期 治療開始日から3週間目頃から始まりますが、治療が終われば必ず生えてきます。

症状 ○全て抜けてしまうのではなく、髪が薄くなることが多いです。

対処法 ○治療中は頭皮も敏感になっていますので、シャンプーやブラッシングの回数を減らしたり、長時間のドライヤーは避けてください。

★その他

症状 便秘、倦怠感、口内炎、聴覚障害、味覚障害、手足の炎症、色素沈着など

対処法 ○必要に応じて対症療法を行います。

副作用は薬剤ががん細胞を攻撃するときの一部の正常の細胞にも影響を与えてしまうことにより起こるものです。

もちろん正常な細胞は治療が終わればもどに戻りますし、副作用も少しずつ回復します。

副作用の出かたや、程度は個人によってさまざまであり、副作用の全てが現れるとは限りません。

大事なことは予想される副作用を十分理解し、その対処をすばやく行うことです。そして副作用があらわれた場合はもちろん、それ以外でも気になることがありましたらどんなことでも、主治医や看護師、薬剤師に相談して下さい。

医療法人敬愛会 中頭病院（薬剤部）

